# 進捗報告書 （緊急災害_実行団体）

**事業名:** 被災聴覚障害者等の安否確認及び生活再建に係る支援事業

**Version 1**

**資金分配団体:** 社会福祉法人中央共同募金会

**日付：** 2022/3/31

**実行団体名:** 一般財団法人全日本ろうあ連盟

**事業期間:** 2021年12月～2024年2月

**報告対象時期:** 2021年12月～2022年5月

**事業対象地域:** 全国

**事業対象者:** 被災聴覚障害者および手話通訳者をはじめとした情報保障者など

**報告対象期間における緊急出動の有無（選択）**

| 出動の有無 | 出動あり |
|---|---|

**※上記項目で「出動あり」を選択した場合は、下記Ⅰ～Ⅸにご記入ください。**

## Ⅰ．事業概要

| 事業概要 |
|---|
| 災害発生時から生活再建まで、当連盟が被災地の聴覚障害者等団体とともに、被災ろう者、手話関係者の安否確認や避難方法の確立のため行政等との交渉調整を行う。また、災害発生後の心のケアには手話言語のできる支援者が必要なため、行政へ全国のろうあ者相談員や手話言語通訳者、手話言語のできる医療関係者の派遣を助言する。<br>今回は、2021年８月の特別大雨警報によって被災した佐賀県、福岡県の本事業対象者に対し支援の状況についてヒアリングを行ない、分析・課題を整理した。 |

## Ⅱ．進捗報告の概要

| 総括 |
|---|
| 全体として、ほぼ計画通り事業を実施することができた。<br>佐賀県高雄市では、以前に豪雨被害の経験があることから当事者団体や手話関係団体との連絡体制や被災後の支援ネットワークの構築がスムーズで、支援者、自治体、支援団体の今後の体制構築について建設的な話し合いができた。一方、行政や支援ネットワークの取り組みが必ずしも当事者に伝わっていない課題が見られた。<br>福岡県久留米市でも障害者支援を担当する部署、災害支援を担当する部署が当事者団体の要望も聞きながら対策を進めていたが、横断的な情報共有がなく当事者に必要な支援・情報が行き届いていない。加えて、ろう者は避難所では必要な支援が得られないだろうという思いがあり、被災した自宅から離れることができない状況になっていたことが確認出来た。<br>なお、新型コロナウイルスの影響で、対面での訪問調査を実施するタイミングが難しく、訪問可能な環境・状況になるまでに時間を要した。 |

## Ⅲ.活動実績

| アウトプット（今回の事業実施で達成される状態 ） | 進捗状況 |
|---|---|
| ①被災地のきこえない、きこえにくい当事者団体の災害支援活動を支援することで、被災地の当事者団体の負担を少しでも軽くし、被災者を支援できる体制がいち早く整えられるようになる。<br>⇒発災後1週間以内に地域対策本部を設立する。 | 佐賀県、福岡県とも、発災後1週間以内に支援体制を立ち上げた。 |
| ②発災後、各場面での情報保障体制が整っていることで様々な情報を得ることができる。<br>⇒防災無線などで発信される生活情報もメールなどで伝えるようにする。避難所では支援員などから手話や文字できこえない人、きこえにくい人に情報を伝える。 | 自治体は、２年前の災害の経験からろう者も含めて、音声情報以外の手段による情報発信に務めていたが、当事者に十分に周知できておらず利用されていなかった。<br>被災当事者が避難所での情報保障に不安をおぼえ、避難行動を抑制した事実がわかった。ろう者が安心して避難行動できるように情報提供等の備えとその周知、受入体制の構築が必要。 |
| ③きこえない人、きこえにくい人の安否確認ができることで次の支援の対策を講じることができる。<br>⇒安否確認を行い、要支援情報を収集する。 | 佐賀県の支援団体では、独自の安否確認システムを開発し、今回の発災地域で速やかに確認作業を進められたとの報告があったが、システムに登録している人の安否確認のみ、登録者数は192名で、さらなる周知の必要性と登録者の拡大が課題。 |

| | |
|---|---|
| ④避難所での情報格差がなくなればきこえる人と同じように避難生活ができるようになる。<br>⇒避難所では、支援員により手話や文字でろう者に情報を伝えるようにすると共に、町内会等の地域ネットワークにろう者が参加しやすい環境を作って、地域との交流をもつ。 | 災害発生時に避難所に支援員を配置する取り組みはまだ充分ではない。<br>避難所での円滑な支えあいのために、普段から町内の様々な活動にろう者が参加出来る環境が必要であるが、支援団体によるアンケート結果では、町内の行事や集会に参加出来ている当事者は１割を切っている。<br>今回の調査では、支援者と要支援者が災害時にすぐに利用できるネットワークを構築するためには、日常的にメーリングリストやＬＩＮＥ等のＳＮＳで情報交換する習慣をつける工夫が、災害時に円滑な支援体制の構築につながることがわかった。 |
| ⑤管轄省庁や地域行政等と具体的かつ有効な支援方法を相談し、実施につなげ、被災者を支援する。<br>⇒各省庁からの通達等制度を手話や文字などで情報を伝え、活用出来るようにする。 | 各自治体とも、当事者団体と連携して、日頃から名簿作りや防災行事への取り組みを行なうようにしていた。とりわけ、罹災証明や災害見舞金などの手続きは手話通訳が必須で、利用しやすい工夫を重ねていた。。 |
| ⑥要望に合った物資をタイミングよく供給することで、団体や被災者支援につなげる<br>⇒地域対策本部で被災者が必要とする物資をとりまとめ、被災地以外の聴覚障害団体などから集め、届ける。 | 今回、生活物資については全国への呼びかけはせず、地域の支援者が持参する方法で対応できた。 |
| ⑦手話言語ができるろうあ者相談員を派遣し、被災したきこえない人、きこえにくい人の心のケアを行う。<br>⇒ソーシャルワーカーの相談員を派遣し、問題解決に向けて支援していく。さらに心のケアの解決手段として、ろう者同士の語らいの場、巡回訪問などを実施する。 | 今回は、心のケアサポートが必要な被災者はいなかった。 |
| ⑧手話言語をコミュニケーション手段とするきこえない人、きこえにくい人がボランティアとして、被災地のきこえない人、きこえにくい人を手話言語でコミュニケーションを取りながらスムーズな支援を行える。<br>⇒ろう者のコミュニティやNPO、支部活動の活動の基盤があってこそ支援体制を組むことができる。 | 今回の佐賀では、支援団体のネットワークもあったが、日常的に利用されているLINE等のSNSでフラットなネットワークを構築されていたため、きこえる、きこえないに関わらず、支援できる人が困っている人をすぐに支援するシステムとなっていた。センター等の拠点からのトップダウンによるネットワークとは違い、即時対応や柔軟性に優れているが、リーダーによる的確なコントロールが必要であり、今後どのようなネットワークを目指すか一層検討していきたい。 |

| 活動 | 進捗状況 | 概要 |
|---|---|---|
| 自治体ヒアリング | 計画通り | ◆佐賀県武雄市<br>出席者：副市長　北川政次氏、福祉部長・福祉事務所長　松尾徹氏<br>福祉課長　黒尾聖洋氏、祉課長代理　松尾伊都子氏<br>福祉課障がい福祉係主幹　宮﨑恭洋氏<br>総務部　防災減災課災害に強いまちづくり係長　松尾博文氏<br>ヒアリング概要<br>行政としては2年前の経験を生かして情報発信に努めていたが、ろう者には充分に伝わっていなかった。武雄市の防災アプリ『たけぼう』を知らず、情報の発信手と受け取り手がつながっていない状況にあった。また、要援護者名簿作成の際のやりとりや防災行事に手話通訳者の配置がなく課題。<br>◆福岡県久留米市<br>出席者　健康福祉部障害者福祉課長補佐　下津浦丈弥氏<br>健康福祉部地域福祉課地域福祉チーム事務主査　中河原葉一氏<br>総務部防災対策課防災チーム主査　湯口秀隆氏<br>ヒアリング概要<br>久留米市は久留米市ろうあ協会と年に１回意見交換を行っていて、これまでに防災メールや安否確認FAXなどを市ろうあ協会からの意見を元に整備していた。現在はピンポイントで情報を送れる「エリアメール」の活用について要望を受けて実現に向けて進めているとのこと。 |

| | | |
|---|---|---|
| 被災者ヒアリング | 計画通り | ◆佐賀県武雄市<br>　ろうの自営業の方で浸水した工房に訪問。3日間水が引かず、防災情報を知る方法はテレビのテロップだけで、市の防災アプリ『たけぼう』は今年の水害後にインストールしたとのこと。<br>　復旧作業は、たくさんの知り合い（ろう者、手話サークル）が自発的にきてくれた。<br>　罹災証明や災害見舞金などの手続きは日本語で書くことが苦手なので、手話通訳者が手話を読み取り、福祉課側が作成してくれた。<br>◆福岡県久留米市<br>　被災者の自宅に訪問。２年前は床上浸水、2021年は床下浸水の被害を受けた。避難指示はテレビ、メールを見て把握し、家の側の川が増水し、水が来ていることは外を何回も見に行って認識していたが、コロナ感染へのおそれ、ペット、避難所でのコミュニケーション保障問題等で、避難はしなかった。罹災証明の手続きや説明は手話通訳が必要であった。 |
| 支援者ヒアリング | 計画通り | ◆佐賀県武雄市<br>出席者：支援者約20名（欠席者は報告を提出）<br>ヒアリング概要<br>　今年の雨で支援を行った西部聴覚障害者協会（武雄市を含む広域組織）と手話サークル関係者に集まってもらい意見交換をした。<br>　西部聴覚障害者協会のグループＬＩＮＥを活用して「被災者がいる」「支援しよう」と会員同士のつながりで支援活動が行われた。また、鹿島手話サークルの会長が、手話サークル会員にも呼びかけ、きこえる人もきこえない人も自分の都合がつく範囲で、自発的に被災者の職場復旧支援活動を行なった。今回の視察・ヒアリングで、手話関係者にも3人の被災者がいたことがわかった。 |
| 支援機関ヒアリング | 計画通り | ◆佐賀県聴覚障害者サポートセンター（聴覚障害者提供施設）<br>　出席者：佐賀県聴覚障害者サポートセンター長　伊藤康博氏<br>　　センター　手話通訳士・社会福祉士・相談支援専門員　香田佳子氏<br>　　センター参事　佐賀県聴覚障害者協会理事長　中村稔氏<br>ヒアリング概要<br>災害時支援体制の構築に取り組み、独自の安否確認システムを構築し運用している。また、ことばの壁がなくろう者が安心して避難できるように、センターでは会議室に畳を敷けるようにし、食料や飲料など備蓄物も整えて、受け入れ体制を整えた。さらに、センター発行の機関紙で熊本地震や今回の水害等を発信、防災学習会も行い、防災意識を高めるよう取り組んでいる。<br>◆福岡県聴覚障害センター（情報提供施設）<br>　出席者　　福岡県聴覚障害者センター施設長　太田陽介氏<br>ヒアリング概要<br>　身体障害者福祉法での聴覚障害者情報提供施設の事業に「災害時の支援」が含まれていないので、福岡県聴覚障害者センターとしては活用できず、福岡県聴覚障害者協会として動くしかなく、法改正が課題とのことであった。九州ブロックとしての体制や事例についても説明があった。（熊本地震対応、朝倉地区の北九州豪雨） |

**Ⅳ. 事業実施後に目標とする状態への所感**

| 自由記述 |
|---|
| 目標は、ろう者が発災時にニーズに合った支援を安心して受けることができること。<br>今回の佐賀県武雄市、福岡県久留米市での支援活動で、ニーズにあった支援の実施が行なわれた一方で、新たな課題を把握することができた。<br>今後次の災害に備え、当事者・支援者のネットワークづくりにフォーカスして、ろう者に的確な情報を随時伝える支援実施体制の構築を進める。 |

**Ⅴ．インプット**

| | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 合計 | 執行金額 | 執行率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 直接事業費 | ¥630,000 | ¥1,676,510 | ¥0 | ¥0 | ¥2,306,510 | ¥630,000 | 27% |
| 管理的経費 | ¥29,349 | ¥264,141 | ¥0 | ¥0 | ¥293,490 | ¥29,349 | 10% |
| 合計 | ¥659,349 | ¥1,940,651 | ¥0 | ¥0 | ¥2,600,000 | ¥659,349 | 25% |

| | |
|---|---|
| 補足説明 | 特になし |

## Ⅵ. 事業上の課題

| 事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応 |
|---|
| 日頃からの地域の活動や「きこえないこと」を理解してもらうことが、<br>緊急事態がおきたときの即応能力の向上につながる。 |

## Ⅶ. その他

| 自由記述 |
|---|
| 武雄市の事例において、自治体の支援は大前提のものとして、当事者と支援者のチーム作りによって効果的な支援を行えた。<br>その理由として、<br>「被災経験のある当事者がいたこと」「災害救援のエキスパート（サークル会員の旦那様が自衛官や警察官）がいたこと」が、偶然にも重なったことが、<br>今日の支援につながった。チーム作りは全国どこでも必要なものであるが、一朝一夕に構築できるものではなく、<br>平時のときからの近所の交流の中で、ろう者の特性を知ってもらい、災害時の心構えや支援方法を学ぶ場を作っていくことが必要と考える。 |

## Ⅷ. 広報実績

| 広報内容 | 有無 | 内容 |
|---|---|---|
| **メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）** | 有 | ＮＨＫ「おはよう日本」３月１日（火）午前７時台の特集「けさのクローズアップ」にて７分～８分<br>NHK WORLD（国際放送）「Newsline」3月10日（木）午後0:00<br>ＮＨＫ未来スイッチ「“聞こえない”を救いたい」(NHK総合)　3月29日（火）午前10:54～午前10:59<br>ＮＨＫ未来スイッチ「“聞こえない”を救いたい」(NHK総合)　4月2日（土）午後0:40~午後0:45 |
| **広報制作物等** | 無 | |
| **報告書等** | 有 | 当連盟ホームページにて報告。<br>「佐賀・福岡視察報告（2021年8月九州豪雨被害）について」<br>https://www.jfd.or.jp/2022/01/13/pid23324 |

## Ⅸ. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
|---|---|---|
| **1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。** | はい | |
| **2. 内部通報制度は整備されていますか。** | はい | |